

保存

調査研究資料 No.18

52.9.14
調査研究部

カリキュラム改善の方法理論

—— 理論と実技との融合をめざして ——

昭和51年度

職業訓練大学校 調査研究部

目 次

1. カリキュラム改善の視角	1
2. 「領域科目」枠組みの構築	4
(1) 教科基準の問題点	4
(2) 「領域科目」とは何か	7
(3) 領域科目枠組みの特長	10
(4) 領域科目枠組みの特長を生かす編成手続き — 機器域を例として —	13
i) 理論域との関連について	13
ii) 理論の系統性と実技の順序性との関連について	18
iii) 工作域との関連について	22
iv) 学科と実習の指導に必要な時間数の差について	24
(5) 領域科目の関連構造	28
3. カリキュラム構造化への「ラウンド方式」の応用	30
(1) カリキュラム構造化に関する従来構想の問題点	30
(2) 「ラウンド方式」とは何か	32
(3) ラウンド方式の応用手続き	34
4. 時間計画の「期間教授」による組織化	36
(1) 時間計画に関する従来方式の問題点	36
(2) 「期間教授」とは何か	39
(3) 期間教授による組織化の手続き	40
5. カリキュラム編成の手続き	42
(1) カリキュラムの構造化	43
(2) 「時間計画表」, 「教育訓練目標表」の作成	46
(3) 「入門ラウンド」の設定	48
(4) 「修了ラウンド」の設定	52
後 記	53
(付) カリキュラム改善による効果	55